

第4回 千代川の今後を考える学識懇談会 議事要旨

日時：平成19年2月23日 14:00～16:00

場所：ホープスターとっとり 7階 銀河

要旨：下表のとおり

表 - 1 意見とその対応(その1)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
1. 環境	
<ul style="list-style-type: none"> ・袋川の水質改善の具体的対策は、水を希釈することなのか ・生物による浄化も長期的観点から必要ではないか。農薬の使用量の減少、ゴミを出さないことも含め生物による浄化対策も含めてはどうか。富栄養化対策には、生物、植物による吸収も考えれば全体での整合が図れるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋川分水水門から0.3m³/sを絶えず流すこととしている。水質改善を一言で片付けるのは非常に難しい。意識啓発などのソフト面とハード面の両方の対策により今後改善していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・袋川について、出合橋から下流は汚い。ボラが増えており、底に泥が堆積していると考えられる。 ・例えば、河床に玉石などを所々に入れてはどうか。魚の隠れ家にもなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂撤去は今後検討していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・外来種のヌートリアが急速に生息域を拡大している。 ・現在、爆発的に増えており、河川管理上外来生物は無視できない。生物多様性にも問題がある。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の国勢調査に水生昆虫の調査は実施しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。
<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な調査は正確かも知れないが、水生生物の指標の方が合理的である。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・前回から生態系と言っているが、エサ場が大事である。水質の管理も含め底生生物が重要である。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・子供の感性は階段護岸で養われるものではない。生物の多様性が保たれつつ、アクセスできるような場でないといけない。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・秋里潮止堰上流についてはスナヤツメが生息しているので配慮してもらいたい。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・魚のつかみどりではなく、種の習性に応じた遊びができるよう配慮すべきである。これにより子供の感性が養われると考える。 	-
2. 維持管理について	
<ul style="list-style-type: none"> ・サイクル型維持管理とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも実施していることだが、維持管理上問題点があれば適宜見直し、次の維持管理に反映させ、これを繰り返していく維持管理体系のことである。新たに年間の計画をまとめた維持管理実施計画を作成し、これにもとづき維持管理を実施していく。

書式変更：フォント：(英) MS ゴシック, (日) MS ゴシック

表 - 1 意見とその対応(その2)

意見及び質問	事務局の回答及び対応
3. 浜坂遊水地整備事業について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜坂遊水地整備事業の記載はいいところ取りをしていないか。 ・ ワークショップを開催したが、各自が自分の言いたいこと、都合の良いこと言うだけでまとまらないという問題があった。 	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今つくっている親水公園は生物の多様性がないとだめである。現在の公園は規模が小さい。大規模な自然公園的な整備(自然とふれあえる公園の整備)を考えていくことが必要ではないか。 	-
4. 本文について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 類型指定、BOD等の用語に注釈をつけてもらいたい。 ・ p.18の水質のグラフの年号の記載は統一すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり修正する
<ul style="list-style-type: none"> ・ p.68に農業関係による汚濁負荷についても追記してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり修正する
<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリング以外に水辺の国勢調査はこの整備計画と関連付けていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連付けて実施していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・ p.12の流況のグラフについては、行徳、宮ノ下で記載項目をそろえるべきである。例えば、低水流量、湧水流量を記載してもいいのでは。 ・ 記載の流況についてその意味を示す注釈を追記してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり修正する。
<p>p.13に関し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治水についてはしっかり記載しているが、利水に関しても危機管理をしっかりと記載すべきである。現在ある協議会等、流域にある委員会等を一覧にまとめ示しても良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり修正する。
<p>p.42に関し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物の生息場として、岸辺も大事であることから、河床掘削を実施した場合、「岸辺の保全する」という内容の文言を加筆してもらいたい。 ・ 多自然川づくりに関し、具体には、石垣(石積)、粗朶沈床工等の具体的対策を加筆してもらいたい。 ・ その他、伐採した樹木を粗朶沈床工に利用することも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水利用の合理化、今後の水需要に対する対応を記載してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後20年間で想定される水需要の増分については、殿ダムの開発水量に含まれている。
5. 環境影響分析報告書について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ レッドリストは見直されており、最新の分類、種の名称に修正してもらいたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ この報告書はどのような扱いなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点での配慮事項を記載したものであり、これで終わりというわけでない。引き続きモニタリング結果等を通じて改善していくものである。